

# 埼玉県川口市における歴史的景観・文化の保全と景観形成のあり方

研究代表者：小瀬 博之（総合情報学部総合情報学科 教授）

研究分担者：尾崎 晴男（総合情報学部総合情報学科 教授）

齋藤 伊久太郎（客員研究員）

## 1. 研究の背景と目的

埼玉県川口市は、政令指定都市以外の都市において全国で3番目となる約60万人の人口を有する、埼玉県と東京都の境にある地方自治体である（図1）。2011年10月1日に鳩ヶ谷市を合併して、近年は、全国的に人口減少社会にありながら人口を伸ばし続け、2008年からの10年間に、旧鳩ヶ谷市地区の約65,000人を含め、9万人以上増加している<sup>1)</sup>。

江戸時代には、将軍の日光社参に使用された日光御成道沿いに鳩ヶ谷宿、川口宿が設置され、日光街道の脇往還として栄えた<sup>2)</sup>（図2）。その一方で、鋳物の街としても有名であり、940年ごろに始まったともされる説もある<sup>3)</sup>。また、味噌の製造でも一世を風靡し、都心に隣接する立地と河川による物流網を活用し、交易を活発に行ってきた歴史がある<sup>4)</sup>。

しかし近年は、工場の跡地や再開発用地に高層マンションの建設が相次いでおり、人口増加の一方で、地域固有の歴史的文化や景観が急速に喪失している。川口市母子・父子福祉センターとなっている「旧鋳物問屋鍋平別邸」や川口市立文化財センター分館である「旧田中家住宅」などの歴史的建造物や、鳩ヶ谷宿の崖線下にある「桜町湧水公園」などの自然景観は保全されているものの、それらを中心とした地域固有の歴史的景観や文化の広がりは見受けられない。

そこで本研究では、日光御成道の宿場町であった鳩ヶ谷宿、川口宿を中心とする地域を研究対象として、現存する歴史的文化や景観などの地域資源を発見するとともに、市民等と情報を共有しながら周知を図り、地域活性化に資する基礎資料を得ることを目的に調査研究を行う。

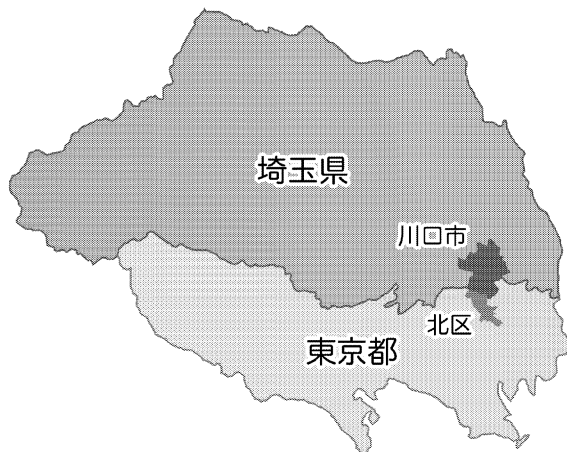


図1 川口市の位置

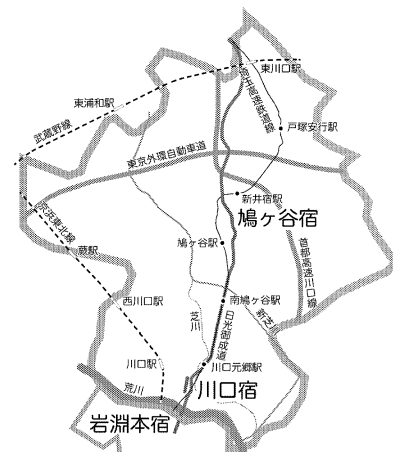


図2 日光御成道（川口宿、鳩ヶ谷宿）の位置

## 2. 研究の方法

本研究は、今年度が初年度となる。そこで、研究の端緒として鳩ヶ谷宿、川口宿における文献調査を行う。古地図や市史などから知見を得て、対象地域の歴史的文化や景観の変遷を把握した。並行して、予備調査として現地調査を行い、両地区の地形及び景観特性、さらに地域固有の歴史

的文化や景観を把握した。また、対象地区の店舗や郷土史家へのヒアリングにより、旧宿場町としての歴史的な認識やまちづくり等への活用、商店街の変遷や現状の雰囲気についてヒアリングを行った。

さらに、得られた地域特性から、保全していくべき要素や改善していくべき要素を客観的に評価するために、川口市内外の参加者を募ってまちあるきワークショップを実施した。集まった参加者とともに、研究対象地においてまちあるきを行い、まちの中にある保全していくべき要素と改善していくべき要素を地図にまとめた。

### 3. 予備調査

#### 3.1 古地図を用いた地域の歴史的変遷の把握

2018年5月9日（水）に鳩ヶ谷宿地区、川口宿地区を訪れて、参考文献5)から得た1881（明治14）年の迅速測図と明治末期から大正初期の1:20000地形図、現在の地形図を携えながら現地を踏査した。迅速測図は、田、畑、林（樹種）、道路、水路、川、寺社、集落の状況がわかる。本研究で対象とした鳩ヶ谷宿と川口宿は、日光御成道沿いに集落が形成され、その周囲に寺社が存在するという状況であり、町割の骨格は、当時と現在とでそれほど変わらない（図3）。川口宿から1kmほど離れた川口駅が開通したのは1910（明治43）年であり、川口宿では、市街地が日光御成道沿いの本町から、西側の金山町に広がっていることがわかる。一方、鳩ヶ谷宿は、明治から大正にかけて大きな変化がない。これは、鉄道から離れた土地であることも関係していると考えられる。

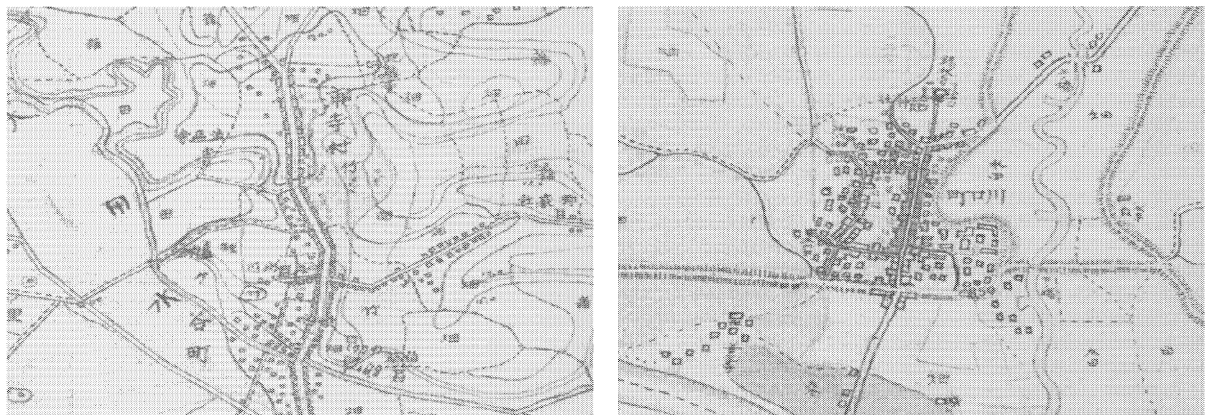


図3 迅速測図 [1881（明治14）年] における鳩ヶ谷宿（左）と川口宿（右）<sup>6)</sup>

#### 3.2 現地踏査

5月9日（水）に加えて6月23日（土）、11月11日（日）に対象地区の現地踏査を行った。6月23日には、赤羽駅より、川口宿と合宿（あいじゅく：半月交代で宿場業務を担当する）となっていた荒川の対岸にある岩淵本宿から徒歩で川口宿に入り、旧流路と街道の変化を把握した。

岩淵本宿の一角では、家守会社により「co-toiro iwabuchi」（図4）と呼ばれるシェアキッチンつきコワーキングスペースを中心にエリアリノベーションが行われ、「宿場町まるしえ」などのイベントも行われている。日光御成道にあたる川口宿の「本一通り」は、川口駅寄りとなる北側には店舗が残っているものの、南側の川に近い場所はほとんど残っていない。また、周囲には超高層マンションが見える状況にある（図5）。ただし、川口宿のエリアには超高層マンションはない。

川口宿には、古くからの海産物乾物店、菓子店、衣料品店、電気店などの店舗がある。しかし、店主の高齢化が進んでおり、現状ではあまり活気が感じられない。

11月11日は、川口市と旧鳩ヶ谷市の合併を記念して2012年に始まった「日光御成道まつり」が4年ぶりに開催された(図6)。川口宿と鳩ヶ谷宿の2会場があり、川口宿では、本一通りはルートに含まれていなかったが、すぐ北側の川口本町大通りを行列が通り、多くの来客が見物していた。



図4 「co-toiro iwabuchi」



図5 荒川土手から見た本一通り



図6 日光御成道まつり

### 3.3 郷土史家へのヒアリング

川口市郷土史会で会長をしている千葉乙郎氏に、川口宿の歴史的変遷について地図を用いた説明を受けた。江戸期の地図から明治13年、明治20年、明治43年、大正6年、大正10年、平成14年と、かつての川口宿あるいはその周辺地域の様子について詳細な説明を受けた。

荒川は、鋳物工場にとって材料、製品を運搬する重要な経路であったことや、将軍の行き来の際に船橋や仮設の板橋を架けたこと、川口宿の大盟主である永瀬氏は、鋳物の材料問屋と製品製造を兼営して富を得ていたことがわかった。また、川口宿の印象について尋ねると、2002(平成14)年ごろまでは活気のある商店街だったが、鋳物工場の移転と川口駅周辺地域の高密度化によって、衰退していったということである。

## 4. ワークショップ

### 4.1 実施概要

鳩ヶ谷宿においては2018年11月25日(日)に、川口宿においては12月1日(土)にまちあるきワークショップを実施した。ワークショップの実施概要を表1に示す。この行事は、図7のちらしを現地やインターネットで配布して参加者を募集した。鳩ヶ谷宿では一般参加者4名を含む9名で、川口宿では一般参加者7名を含む14名で実施した。一般参加者は、川口市民を中心として、当該地域に詳しい方も参加され、地域の状況や事情を伺いながらの実施となった。

当日は、集合場所から参加者全員が一緒にまちあるきをしながら、各自が対象地区における要素(場所、ヒト、コト、モノ)を、①魅力的な要素(○)、②気になる要素(△)、③課題のある要素(□)の3点から評価し、まちあるき後に、ワークショップ会場において各自で調査した要素をまとめ、大きな地図に3点ごとに色分けされた旗を立ててマッピングを行い、対象地区における要素の全体像を可視化するとともに、「フラグマップ」として集約した。「フラグマップ」の作成後、各々がまちあるきをして発見したことなどを発表して情報を共有し、対象地区の特徴やまちづくりの方策について議論した。

ワークショップの様子を鳩ヶ谷宿については図8に、川口宿については図9に示す。左の写真

はまちあるき、中央の写真は「フラグマップ」作成後のディスカッション、右の写真は「フラグマップ」の拡大である。

そして、ワークショップ終了後に「フラグマップ」にある要素、評価、理由をまとめて、「アメニティマップ」として情報を集約した。

表1 ワークショップの実施概要

対象地区		鳩ヶ谷宿	川口宿
開催日		2018年11月25日(日)	2018年12月1日(土)
時間		13:00-17:00	13:00-17:00
ルート		鳩ヶ谷駅から見沼代用水路、御成坂公園、水川神社、十一屋北西商店、市神社、小谷三志居宅跡、法性寺、地藏院を経由してふれあいプラザさくらまでの片道ルート	スマイルでえぶるを起終点として旧芝崎平七邸、日光御成道(本一通り)、旧本陣、鎌倉橋記念緑地、旧舖物問屋鍋平別邸、文化財センター、錫杖寺、川口神社を巡回するルート
実施方法	まちあるき	主催者が案内しながら全員であらかじめ定められたルートに沿って、魅力的/課題のある/気になる要素(場所、ヒト、コト、モノ)を写真撮影やメモを取りながら歩く	
	ディスカッション	まちあるきで見つけた魅力的/課題のある/気になる要素(場所、ヒト、コト、モノ)をふせんに記入し、フラグを立てる	
参加者数		9名(一般4名、学生3名、主催者2名)	14名(一般7名、学生5名、主催者2名)
発見した要素		47	63
評価別	魅力的な要素	38(81%)	50(79%)
	気になる要素	7(15%)	11(17%)
	課題のある要素	16(34%)	15(24%)
コメント数		123	137
評価別	魅力的な要素	80(65%)	107(78%)
	気になる要素	10(8%)	12(9%)
	課題のある要素	33(27%)	18(13%)



図7 ワークショップの開催ちらし



図8 鳩ヶ谷宿まちあるきワークショップの様子



図9 川口宿まちあるきワークショップの様子

## 4.2 結果

鳩ヶ谷宿まちあるきワークショップの「フラグマップ」から、同一の要素を評価別にまとめて図10の通り「アメニティマップ」としてまとめた。これらの要素の写真を、評価の記号と名前も含めて図11の通りまとめた。また、川口宿まちあるきワークショップの「フラグマップ」から、同一の要素を評価別にまとめて図12の通り「アメニティマップ」としてまとめた。これらの要素の写真を、評価の記号と名前も含めて図13の通りまとめた。

なお、これらの写真は2019年2月8日(金)に追調査で得たものも含む。

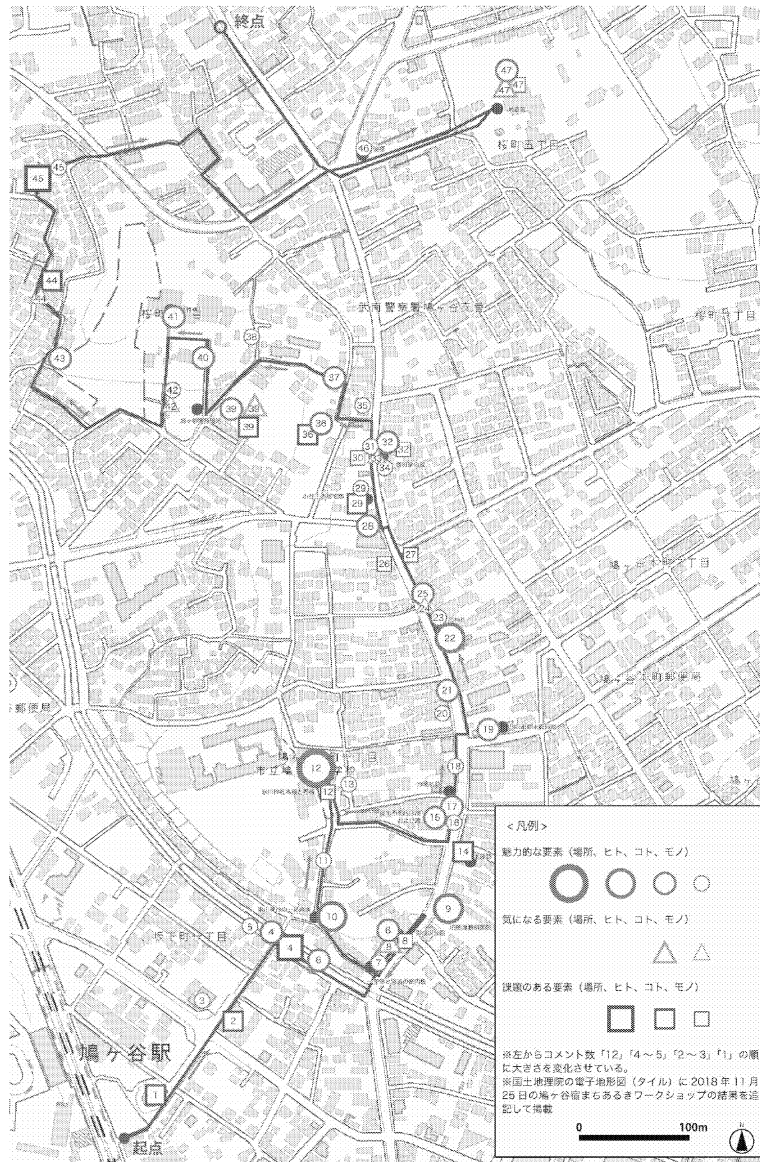


図 10 鳩ヶ谷宿アムニティマップ



図 11 鳩ヶ谷宿まちあるきワークショップにおいてコメントされた要素の写真

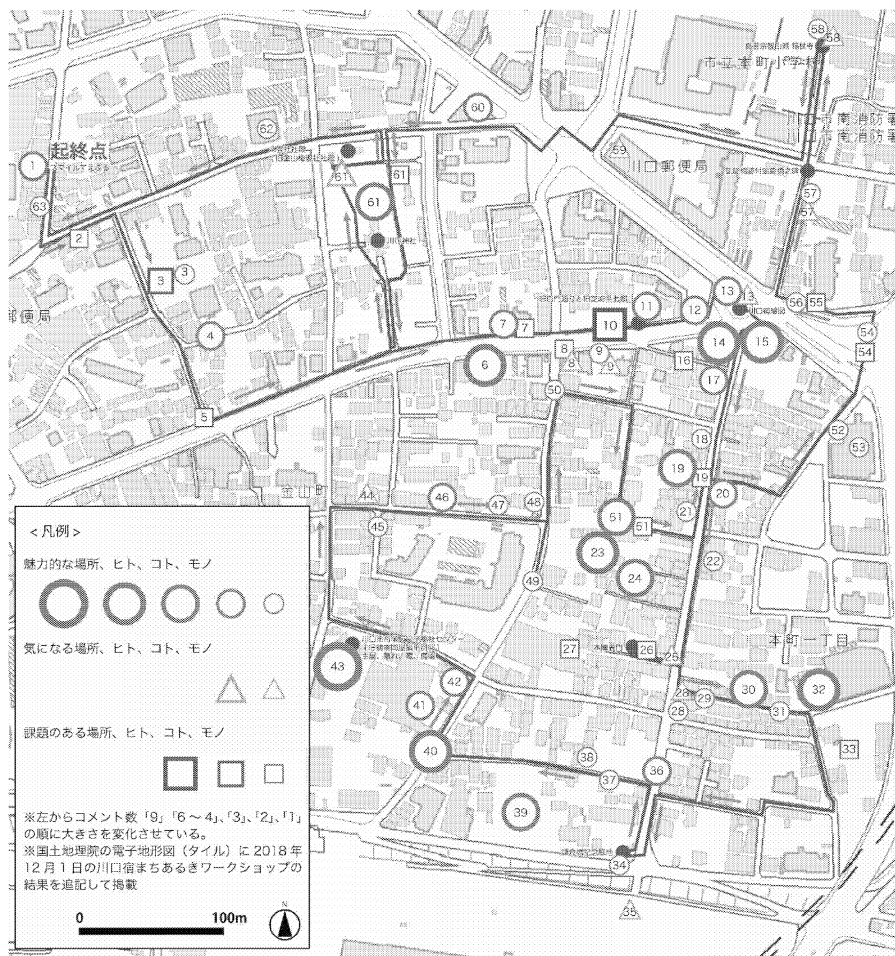


図 12 川口宿アメニティマップ



図 13 川口宿まちあるきワークショップにおいてコメントされた要素の写真

## 5.考察

鳩ヶ谷宿の特徴的な要素を、代表的な写真6枚により図14に示す。日光御成道の東西に散在する寺社と崖線上の坂からの眺めのよさ、季節の彩りを添える巨樹などのみどり、歴史的資源の存在やかつての町並みを知ることができる案内板や碑、鋳鉄製のポストや消火栓などの古い構造物、大正時代に建造された石組の蔵をはじめとする商家が挙げられる。鳩ヶ谷宿の日光御成道は、今でもバスが頻繁に通っていることや拡幅が行われていることから、歴史を感じさせる雰囲気は失われているが、氷川神社、法性寺、地藏院などの寺社が、この地区の長い歴史と文化を感じさせる十分な風格を備えている。ワークショップの参加者から鳩ヶ谷宿界隈の魅力を伺ったところ、上記のほかに路面店や個人スーパー、駄菓子屋が多く、自治会の組織やボランティア活動も盛んな「東京に近い田舎」という意見があった。商店街や商店では、「ふれあいマーケット」や「ぽっぽマルシェ」というイベントを実施しており、商店街としてのつながりが保たれている印象を受けた。寺社、自然、地形の風光明媚な面と商店街の活気を合わせてアピールすることが必要と考えられる。

川口宿の特徴的な要素を、代表的な写真6枚により図15に示す。鳩ヶ谷宿と同様に川口神社と錫杖寺という2つの寺社があること、かつての工業、商業の反映を思わせる煉瓦塀のある路地や昭和初期に建てられた和洋折衷の邸宅が散在していること、案内板や碑により、川口宿のかつての様子がわかること、古くに使われていた街灯や、今ではめったに見かけない旧標識、鉄製の電柱などの遺物、構造物、そして、明治から昭和初期にかけての古い商家が散在していることである。「本一通り」は、早くから主要街路としての役目を終えていたことや、それに伴い中心市街地も早くから川口駅前に移動したこともあるためか、価値のありそうな歴史的な遺産が鳩ヶ谷宿よりも多く散在している。ワークショップの参加者からは、新しい建物の中に古い建物が残っているという意見がある一方で、コンビニエンスストアなどで生活は便利であるが、通りの商店がほとんどなくなってしまっている人のつながりがなくなっているのはさびしいという意見もあった。過去に発行されたこの地区を紹介したイラストマップやインターネット上の情報と現状を比較すると、商店や建物が急速に失われており、比較的低層の新しい住宅が建ち並ぶ住宅地に大きく変化している。歴史的な資源を記録にとどめるとともに、広く情報発信して、住民や外部の人に対して歴史的に価値ある町並みへの関心を高めていくことが求められる。

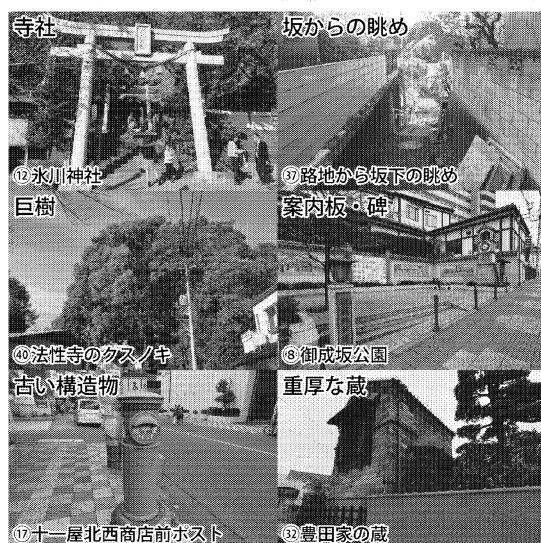


図14 鳩ヶ谷宿における特徴的な要素



図15 川口宿における特徴的な要素

## 6. 結論

本研究は、日光御成道の川口宿、鳩ヶ谷宿地区における魅力的な要素の把握並びに活性化に資する基礎資料を得るために、両地区においてまちあるきワークショップを実施し、参加者の評価を地図上にまとめ、情報を集約することができた。

今後の課題として、上記の通り挙げられたそれぞれの地区における歴史的景観・文化の保全を具体的にどのように進めていくことが望ましいのか、それによって街の魅力をどのように高め、地域活性化につなげていくべきかを地域の方々や関心のある方も交えて考えていきたい。今回のワークショップにより、この研究で掲げた課題に対してとても関心のある方、また、地域のキーパーソンとなる方とつながることができた。次年度についてもワークショップなどにより、より関心を高めていく方法論も含めて、他の地域にも応用できるような知見を得ることも課題とした。

## 7. 謝辞

本研究の調査・分析等において、旭優馬君（総合情報学部 4 年）の多大な協力を得た。また、ヒアリングにご協力いただいた川口市郷土史会会長の千葉乙郎氏、川口宿まちあるきワークショップの会場を提供いただいた暮らし菓子工房 スマイルてえぶる店主の藤沼貴子氏、まちあるきワークショップの参加者各位にこの場を借りて謝意を表する。

## 参考文献

- 1) 川口市, “人口の統計” (2019.2.13 閲覧)  
<https://www.city.kawaguchi.lg.jp/soshiki/01020/010/toukei/12/>
- 2) 川口市, “川口宿 鳩ヶ谷宿 日光御成道まつり – 日光御成道の歴史”, 広報かわぐち (2012.11)  
<https://www.city.kawaguchi.lg.jp/material/files/group/3/95870449.pdf>
- 3) 川口鋳物工業協同組合, “鋳物の歴史” (2019.2.13 閲覧)  
[https://www.kawaguchi-imono.jp/?page\\_id=7](https://www.kawaguchi-imono.jp/?page_id=7)
- 4) (株)田中徳兵衛商店, “会社沿革” (2019.2.13 閲覧)  
<http://www.central-group.co.jp/miso/enkaku.html>
- 5) 谷謙二, “時系列地形図閲覧サイト「今昔マップ on the web」” (2018.5.8 閲覧)  
<http://ktgis.net/kjmapw/>
- 6) 農研機構, “農業土地利用変遷マップ” (2019.2.17 閲覧)  
<http://www.finds.jp/altmap/>